



神戸大学山岳部山岳会

ACKU-news

発行：神戸大学山岳会事務局



横山先生退官記念山行（氷ノ山ヒュッテ前）

23

特集 1

横山千秋先生ご退官

特集 2

「遙かなエクスペディション」に対する紙上討論

特 集 1

横山千秋先生ご退官

昭和20年代から40年以上にわたって神戸大学理学部に勤務された横山千秋先生が、1996年3月定年退官されました。先生には、1968年(昭和43年)の氷ノ山スキー合宿以来30年近く山岳部のスキー指導にあたっていただき、御岳遭難後の1989年からは山岳部顧問としてもお世話いただきました。おそらく歴代指導者の中で最も多く現役部員と山行をともにしていただいたのではないのでしょうか。

その先生の退官に際して、山岳会・山岳部は、2月に退官記念山行、5月に退官記念講演&パーティを開催しました。以下、それらの報告と先生の新しい勤務先である乗鞍の宇宙線観測所からのお便りをご紹介します。

◆氷ノ山 横山先生退官記念登山 (1997.2.22~23)

井上 達男

メンバー:

先発隊:(2/22) 金井健、直木、小谷、田中俊、金井良、井上達、井上Jr

現 役:(2/22) 正田、澤田、見上、小宮

後発隊:(2/22) 香山、野辺正、池本

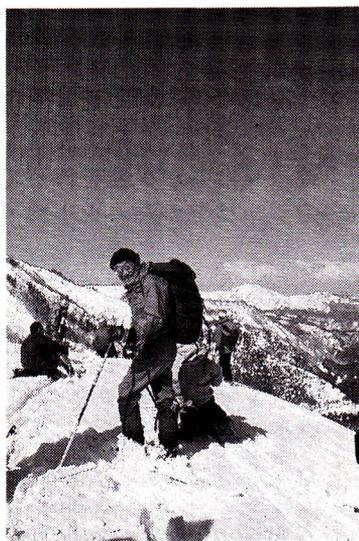
日帰隊:(2/23) 横山、岡市、緒方、居谷、
山田、長谷川、竹内

その他:(2/22 東尾根まで同行) 山内
(積雪による渋滞で生野で帰姫) 坂本亨、壺阪

横山先生の退官記念登山を氷ノ山で開催出来たことは本当におめでたいことだ。まず、先生が健康でなければできない。スキーがお好きでなければできない。氷ノ山の千本杉ヒュッテがなければできない。それに良き仲間がいなければ勿論出来ない。

もう30年も昔のこと。先生には不便で汚く、十分なゲレンデのない氷ノ山に何度も入っていただき、新人のスキーコーチをしていただいた。

外は雪、しんしんと降る。気温-15℃、ブナの倒木を



横山千秋先生(大段平からの林道コース。背景は鉢伏)

割った薪がストーブの中で赤々と燃える小屋は、煙たくてたまらないけれど、清酒千本杉の冷たい喉越しに酔ったふりをして夜は更け行く。あのころからすでに30年の歳月が流れた。

思い出多き氷ノ山に雪の頃に入って記念登山ができたのは本当に幸せだ。折からの吹雪とスキー客で道路が大幅に渋滞し、横山先生がヒュッテに泊まれなかったのは残念だが、翌日小屋まで登られ、大段平への滑降を皆と楽しまれた。まずは無事に会を終えられることができた。

2 /22

2 /21 井上とJrは前夜から出発。篠山あたりから雪。近畿自動車道路の閉鎖される直前を通過。ラッキーにも込まない道を遠坂峠越えて但馬に入った。しかし、吹雪は激しく、道も定かでないほどに吹雪く。ヘッドライトに舞い上がる雪煙はwhite outの世界を出現させた。慎重に運転して峠を越える。福定で駐車すればよかったのだが、鉢伏高原に登って、道端の除雪車の入った跡に駐車。雪の中でデリカビパーク。新雪が30cmも積もっている。但馬で出会う久しぶりの大雪だ。

22日は早朝にペンション中村に寄ろうとしたが、入口が吹きだまり。スタックして脱出に15分ほど費やす。結局、高原の駐車場に車を置いてスキーで福定に下った。皆はなかなか到着しない。先発が氷ノ山スキー場を出発できたのは11時を過ぎていた。

11:30 氷ノ山スキー場出発。

17:00 千本杉ヒュッテ到着

井上Jrと先頭でラッセルを始めたらすぐに現役が追いついてくれた。しかし、中にはスキーになれていないのもいて、結局、深いラッセルに従事する。東尾根は廻り込まずに最初の支尾根を回り込んだ所から斜面をジグザグを切って登り、稜線にうまく出ることが出来た。夏道が稜線に出る所の避難小屋でバラバラになっていたPartyを一旦集合させ、東尾根のラッセルに突撃する。元気なのは井上Jrと直木さん。一ノ谷のトラバースでは雪庇を切り崩して南斜面に入ったり、結構なアルバイトだった。

夕刻によくヒュッテに入る。小屋は荒れていて一階のストーブも薪が不十分なので諦めて2階で食事をする。薪を焚かない小屋は寂しいものだ。現役や香山君、野辺君たちが夕食を作ってくれ、それでも楽しい一夜を過ごすことが出来た。持参のシュラフカバーを小屋のシュラフの中に入れ、羽毛服に身を固めて就寝。

2 /23 晴

6:00 起床

ああ何とすばらしい朝。大段平から下は霧に包まれ、山並み遥かかなたの東の空からご来光。小屋の屋根は新雪に埋まり、側のブナ林が銀色の霧氷に全身を包み、舞踏会の姫君達の正装のごとく紺碧の空にその美しい姿を乱舞させている。やって来た甲斐のある瞬間だ。この朽ちかけたヒュッテも自然の一部のごとく千本杉の斜面に収まっている。何としても残したい存在だ。



23日朝出発したメンバー（氷ノ山国際スキー場）

9:00 ヒュッテ出発

9:30 氷ノ山頂上

頂上で乾杯。遠く大山がピラミダルな姿を水平線に浮かべている。朝日に輝く大斜面を三々五々山頂に向かった。下りは狭しとあの広い小千本の雪原を左右にジグザグと切り刻んでいくのはちょっと響きものだが、楽しくヒュッテに帰着。

10:30 横山先生 ヒュッテ到着。

すっかり晴れ上がったヒュッテの前で記念の式典。小型のアタックザックを皆からプレゼントする。これからも山と一緒に行っていただく約束。

さて、小屋の前には白銀の大斜面がずっと大段平まで続いている。まだ処女雪のまま。早速だが先頭を切ってウェーデルンで大斜面を下る。スッテン・ボーゲンからテレマークと、技術はピンからキリまで、スタイルも千差万別の大パフォーマンスの始まりだ。池本君はスノーシューズでの下り。彼よりも遅いスキーヤーが何人かいた。

大段平から林道をぐるりと廻って氷ノ山スキー場に帰った頃はすでにスキー場も終了の時間。登降リフトがまだ動いていて、昔苦勞してスキーで下った段段畑の坂道を滑って降りることなく、福定に到着した。緒方君がヒュッテを出発した時点で足首を捻挫したらしく、麓のスキー場で足を引きずっていた。ここまでじっと我慢していたらしく、その素振りも見せなかった。お互いだいぶ年、無理しないようにしましょう。



これからもともに山へ（ヒュッテ前）

◆退官記念講演&パーティー

編集部



1997年5月25日(日)

神戸市中央区北野の六甲荘にて上記の会を開催しました。

会の前半は、退官記念講演として、素粒子論を中心とした最新の物理学の情勢や先生の以前からの研究対象である宇宙線研究の話、さらにその研究とからめて先生が青春時代を過ごされた南米でのエピソード等を語っていただきました。ポリビア・乗鞍などのスライドもふんだんに見せていただき、こよなく美しい山々と対峙するそれらの場所がそのまま先生の職場であったことに、皆感嘆と羨望のため息をもらすばかりでした。

平井会長の挨拶では、「神大在職40年以上は学内でも屈指。本当にご苦労さまでした。私が退官の時は山岳会以外の集まりは1回だけでしたが、横山先生は4回もあるとのこと、これも横山先生の人徳のなせるところでしょう。」といった言葉があり、奥様の挨拶では、「主人があまりお酒を飲むと体に悪いので、みなさんで乗鞍へ出かけて主人の分まで飲んであげてください。」との言葉が印象的でした。

自然とお酒と山岳部を愛し、世界を又にかけた研究者横山先生、本当にお疲れさまでした。そして、これからも私達をよろしく。

参加者

横山先生夫妻、平井、北口、金井健、川口、林、田中俊、坂本亨、小谷、徳田、井上達、緒方、居谷、宮本、松村、長谷川、尾崎、柴田隆、武智、竹内、杉本、野辺、稲岡、香山、天野、下釜、木田、正田、池本、島貫、中村、入江、澤田、鈴木、小宮、中谷

(敬称略)

◆のりくら便り

横山 千秋

この度の私の退官に際しましては、記念山行、記念パーティーといろいろの会を催していただき、身に余る光栄と感謝しております。有り難うございました。

さて私、この次の身のおき所として、その昔（と言ってもよいと思いますが）若き時代を過ごした乗鞍岳に又、又、お世話になることになりました。山上の観測所ですが、正式名称は「東京大学宇宙線研究所附属乗鞍観測所」です。

観測所勤務は、常勤の皆さんは、大体2週滞在、4週東京勤務というパターンで四季を通じて行われるのですが、私の場合は、非常勤職員という立場上、このパターンよりは少しずれた乗鞍滞在となりそうです。

6月に入って早速乗鞍に来ました。懐かしくもあり、又いろいろと変わったな…と思っているうちに早くも10日余りがたってしまいました。

そして早速、台風七号という洗礼を受けました。20日の朝、台風が近づいているはずなのですが、風も弱く、気圧も少し低いかないという程度でした。しかし9時頃になると気圧も次第に下り始め、ガスがどンドン西の方に吹き飛ばされてゆきます。そのうちに雨も混じってきたのですが、昼頃が一番強かったようです。薄い観測所の屋根はゴーゴーと音を立てます。もし屋根が飛ばされたら…との心配のうちに1時頃には急に雨風ともに静かになりました。気圧計は約10ヘクトパスカル下がっていました。台風が一番近づいていたのでしょう。2～3時間後には風向きも変わって再度強くなり、夜になっても雨風ともに強く、翌日も台風一過とはならず、荒れた日が続きました。

22日は朝快晴、あまりの気持ちの良さで、頂上往復をしました。久しぶりに見る乗鞍からの槍・穂高です。笠の方はすでに雲がかかり見えませんが、黒々とした槍・穂高は相変わらず天を指さしているようです。穂高はつり尾根上部に雪が光っており、前穂、西穂を左右にひかえ、正に堂々とした姿を見せています。岳沢の下部は緑で、上高地の美しい新緑を想像させてくれました。

大雪渓は、先日雨で解けたとは言え、まだまだ大きな雪のフィールドです。下の方の沢に入ると這松の間にショウジョウバカマが花を付けているのを見つけました。雪解けの水は大きなシュルンドを作りながら、爽やかな音をたてています。

観測所付近も、私が入山した時はシャクナゲもガンコウランも、雪のカバーがとれただけという感じでしたが、昨日は嵐の中でシャクナゲの大きなつぼみを見つけました。山の生き物は雨ごとに夏への息吹きを蓄えていっているようです。

この次も又、山のうつろいの報告をしたいと思います。最後になりましたが、もし乗鞍の方に来られることがありましたら、観測所に声をかけてみて下さい。お待ちいたしております。